令和5年度　大田区立出雲中学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

令和6年3月8日

◎ 教育目標　　知性を高めよう　　情操を豊かにしよう　　健康な人になろう　「挨拶・笑顔・輝く未来」　～自分たちの学校は自分たちで創る～
◎ 目指す生徒像
　1　自分で考え、判断し、行動できる生徒（自律）　2　違いを理解し、他者を尊重する生徒（尊重）　3　失敗を恐れず他者と協働し、新しいことに挑戦する生徒（創造）

生徒数556名の大規模校であり、部活動は「地域の中のみんなの学校」として、チーム出雲中で生徒を支援する仕組み作りを実践する。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	生徒の学校評価の「あなたは、自ら進んであいさつをしていますか。」「先生は進路について、適切な指導や助言をしてくれますか。」及び保護者の学校評価の「お子さまは、自ら進んであいさつをしていると思いますか。」「学校は進路について、適切な指導や助言をしていると思いますか。」に肯定的な回答が 4:　85%以上 3:　65%以上 2:　50%以上 1:　50%未満	4: 3: 2: 1:	4	・本校の基本方針である「挨拶・笑顔・輝く未来 ～自分の学校は自分で創る～」に基づき、挨拶については、日頃から生徒に意識をもたせることで定着しており、来校者からもお褒めの言葉をいただいている。今後も継続して取り組む。 ・他者の人権を尊重する活動については、道徳を中心とした全教育活動を通じて継続的に行っている。次年度も目指す生徒像である「違いを理解し、他者を尊重する生徒」の育成を目指して教育活動を推進する。 ・論理的・科学的な思考力の育成については、意図的・計画的な体験活動を、教育課程に位置づけるよう心がけた。 次年度もさらに充実した取組が増やせるよう生徒の興味関心を引きつけられるような活動を展開する。	A B C D	7 3 0 0	・生徒は校内では先にあいさつをしてくれます。これが卒業しても続いていければいいと思います。 ・5項目めの「体力テスト」はプラン4に含めていただいた方が違和感がありません。 ・思春期の子どもたちの育成にはチーム出雲もさることながら「チーム学年」のまとまりが大切であると感じています。 ・学年PTAの活性化に資する取組みが必要ではないかと考えます。 ・年々授業中に電子黒板・タブレットを上手に使っているクラスが増えており、指導力の向上を感じている。 ・体育祭、文化祭等も生徒の自主性や頑張りも見受けられて、機能してきていると感じている。 ・職場体験時や部会で小学校を利用するときも、しっかりとあいさつでき、礼儀が身についていた。 ・コミュニケーションはぐんぐん良くなっていることを感じています。 ・他者を尊重する教育が伝わっていると思います。 ・様々なイベントに積極的に参加するなど子ども達への育成に熱意を感じました。 ・子ども達は、すれ違えば必ずあいさつをしてくれ、コミュニケーションがとれていると思います。日頃の先生達のご指導があるからこそだと思います。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3						
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	4						
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3						
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3						
		「挨拶・笑顔・輝く未来 ～自分の学校は自分で創る～」に基づき、当事者意識をもって安全・安心な環境を構築している。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4						
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒の学校評価の「先生の授業は分かりやすく、質問に対してもていねいに対応してくれますか。」及び、保護者の学校評価の「先生の授業は教え方や教材の工夫がされていると思いますか。」に肯定的な回答が 4:　85%以上 3:　65%以上 2:　50%以上 1:　50%未満	4: 3: 2: 1:	4	・「わかる授業」の工夫に向けた授業改善として、1学期に「授業観察ウィーク」を設定し、教員が授業改善に主体的に取り組んだ。ICTも効果的に活用する授業づくりを実施した成果として生徒アンケートで「授業がわかりやすく、質問に対しても丁寧に対応してくれる」という設問に対し、90.8%の肯定的回答を得た。次年度も引き続き魅力ある授業の創造について研究していく。 ・地域支援本部と連携して、放課後や土曜日等、計画的に補習を実施することができた。また、英検や漢検対策においても一人ひとりに丁寧に対応していただき、生徒の意欲を引き出すことができた。今後も基礎・基本の定着を図るとともに学習習慣の確立を進める。	A B C D	7 3 0 0	・学力については、外部からはわかりにくい所がありますが、公開授業などを拝見して、生徒も先生も頑張っている様子がうかがえます。 ・教職員の方は、わかりやすく興味・関心の持てる授業を工夫してくださり感謝しています。 ・スモールステップの学び直しの機会を意識して増やすことができるよう地域支援本部も連携して参ります。 ・子ども達が理解できるように様々な工夫をして取り組んでいるクラスが目立っていた。一人ひとりに意識を持たせていくことが伝わってきたクラスもあり、子ども達は着実に成長しているように感じた。 ・数学の少人数制のクラスでの各々の理解度からくる教え方が印象的であった。 ・小中一貫の研修により、小中のお互いの課題の共有や、やり方を学ぶことにより授業改善を図れている。 ・タブレット活用など使われてて、ますます良いのではと思います！ ・ICTの活用には、可能性を感じました。先生方が使いこなしているのに感心しました。 ・一人ひとりのサポートは素晴らしいと思います。さらにブラッシュアップした内容に期待しています。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2						
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4						
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4						
		「わかる授業」の工夫に向けて、授業改善（学び合い、ICTの活用等）を意識している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4						
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	生徒の学校評価の「あなたは自分と違う意見の友達とも、感情をコントロールしながら話し合うことができますか。」及び保護者の学校評価の「お子様は命を大切にし、人を傷つける言動をしないように心がけていますか。」に肯定的な回答が 4:　85%以上 3:　65%以上 2:　50%以上 1:　50%未満	4: 3: 2: 1:	4	・小中一貫教育の連携において、定期的に研修会を実施することで相互の教育活動の理解を深めることができた。生徒主体の部活動体験においても、中学生の自己肯定感を高めるとともに、小学生に安心感を与えることができた。 小中高の音楽交流会でもそれぞれの良さを発揮することができたので、継続して取り組む。 ・道徳や特別活動の授業を通して、多様な他者を認め合うソーシャルスキルの要素を取り入れ、生徒の自己肯定感を高めることができた。 ・いじめやトラブルに対しては、迅速かつ正確に情報を収集するとともに、保護者と連携し、誰もが安心・安全な学校生活を送れるような環境作りを行った。 また、必要に応じて関係機関につなぎ、生徒の自律を支援し、将来に向けた健全育成を見据えて対応することができた。今後も課題を学校だけで抱えることなく組織的に対応していく。	A B C D	8 2 0 0	・生徒たちは学校だけでなく日々の生活や体験の中でも、いろいろ経験し、心の成長があります。良い経験だけでなく思い通りに行かない経験もして成長します。先生方は多忙の中、勉強だけでなく適切に対処していると思います。 ・教職員の方々は、生活指導などひとつひとつ丁寧に見ていただき感謝しております。 ・心の成長は学校だけでできることではないので、地域で何ができるのか連携していきたいと思います。 ・生活指導に関しては、小中一貫的ところは上手く伝わって来ていないように感じられる。どちらに責任ということでなく、一つの線上にあるような関係が必要なわけで、そこに今も問題があるように思う。ただ、問題行動等に対して、校長をはじめ教員全員での素早い対応には好感が持てる。不登校問題等、また一部の生徒による急学問題等も、ちゃんと正面から取り組んでいるところに、生徒全体におよぼす影響も良いのでは。 ・音楽交流会や部活動体験、職場体験時の児童とふれあっている場面を見ても、他者への気持ちが育っていることがうかがえる。 ・小中での定期的な研修会や引継ぎなどを通して、継続的な教育ができている。 ・保健師さんの講演など良いなと思います！全学年でできると良いな！と思っています。 ・生徒にとっても、保護者にとっても、安心・安全な学校であってほしいと思います。「心のよりどころ」になるといいですね。 ・コロナ後で、少し落ち着きがなくなってきた感じがします。 ・これまでに学校が対応してきた姿勢には問題は感じられません。このまま、しっかりとした体制の中で支援されていくことを期待します。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2						
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3						
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4						
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4						
		他者を尊重し、多様性を認め合うことで自己肯定感を高め、学校が安心・安全な居場所となるよう努めている。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3						
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒の学校評価及び保護者の学校評価の「体育の授業や部活動、習い事等で体力を向上させましたか。」「学校の給食は工夫されていて、おいしいと思いますか。お子さまはおいしいと思われていますか。」に肯定的な回答が 4:　85%以上 3:　65%以上 2:　50%以上 1:　50%未満	4: 3: 2: 1:	4	・定期的に発行する「給食だより」や「保健だより」において望ましい生活習慣について啓発し、日々の給食や家庭科の授業を通して食育を実践することができた。 また、栄養士による食材の展示や伝統食や季節の献立、給食室の様子等の掲示、放送委員による給食紹介の工夫も食に関する知識や興味を広げる機会となった。 ・保健体育の授業はもとより、部活動や区の連合陸上大会でもたゆまぬ努力を重ねることで、優秀な成績を収めることにつながった。今後も運動が苦手な生徒も体調等の自己管理能力を高め、体力向上の意識を啓発していく。	A B C D	8 2 0 0	・健康や体力については主に家庭の協力が大きいと思います。 ・お米やお味噌の食べ比べなど、給食を通じての食育が推進されていて大変ありがたく感謝しています。 ・猫背や姿勢の改善、視力改善ストレッチなど、外部講師などを活用できるのではないかと思います。 ・校内において給食に関しては、食材やその産地、また栄養についても書類や掲示等できめ細やかな案内があり、通常の食習慣にも良き影響があったことかと感じている。栄養士さんに感謝。 ・体育、体育祭をはじめ部活動を含めて体力向上に向けてとても素晴らしい努力、取組みが見えている。 ・部活動の活躍等も生徒の頑張りはもちろんだが、顧問の教員の力強い存在をありがたく思う。 ・部活動の生徒の活躍も素晴らしいが、学校の体育館を借りに来る生徒の態度がとても良く、礼儀もしっかりしている。 ・様々に活躍していて、垂れ幕など見るだけで嬉しくなります。 ・とても良く出来ていると思います。 ・子ども達への徹底した健康管理があって、感染症に対する行動にも適切に管理できていたと思います。 ・学校給食では以前（1年前）は不味いと子どもからして指摘があった事を思い出しました。最近は美味しくなったと言っていました。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3						
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3						
		体力向上や、食育に興味をもたせ、健康増進に向けた自己管理能力を高める。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3						
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	生徒の学校評価の「出雲中での学校生活はたのしいですか。」及び、保護者の学校評価の「お子さまは学校生活を楽しく送っていますか。」に肯定的な回答が 4:　85%以上 3:　65%以上 2:　50%以上 1:　50%未満	4: 3: 2: 1:	4	・授業公開日の案内の中に、当日の授業のポイントや工夫点等を記載し、保護者にも授業内容や目標がわかるように工夫した。今後も積極的に授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びに向けた有効な研修を実施する。 ・特別支援コーディネーターを中心とし、生徒情報について教員間で的確に共有するとともに、個々の生徒の実態に応じた支援について関係機関と相談しながら保護者の理解を得られるよう努力した。 ・教員自ら気持ちの良い挨拶を心がけ、生徒の模範となるような接遇となるよう努め、保護者や地域や保護者からの信頼を得られた。引き続き人権感覚を磨き、言語の選択も含め研鑽を積んでいく。	A B C D	8 2 0 0	・学校公開やいろいろな行事を拝見し、生徒たちも生き生きしています。生徒や先生が元気に活動しています。 ・特別支援に係る人材が不足しており、教職員の方々の負担が増していると感じています。特別支援の専門的人材や医療・福祉系の人材の活用、増員を区教委に要望していただきたいと思います。 ・今年1年、職員室の雰囲気はとても明るく好印象を持っている。学校公開等でも積極的な取組みも見受けられた。教室内展示等もよく出来ており廊下での展示も学年ごとの内容からの比較もあり良かったと思う。 ・学校に訪問した時、萩中小学校にこられたとき、職員がとても丁寧にあいさつし、対応していてとても良かった。 ・いつ学校に連絡しても快く対応してもらい安心できています。 ・特にありません。 ・なぜ"2"なのか？？
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3						
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4						
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4						
		電話対応や来客対応において、明るく丁寧な接遇を心がけ、保護者や地域との信頼関係を高める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4						
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	生徒の学校評価の「機会があれば、地域行事やボランティア活動に積極的に参加しようとおもいますか。」「あなたは将来、人や社会のために役に立ちたいと思いますか。」及び保護者の学校評価の「お子さまは、地域行事やボランティア活動に積極的に参加しようと思っていますか。」「お子さまは将来、人や社会のために役に立ちたいと思っていますか。」に肯定的な回答と「学校は地域の活動や行事に協力的である」に肯定的な回答が 4:　85%以上 3:　65%以上 2:　50%以上 1:　50%未満	4: 3: 2: 1:	2	・学校の教育活動について、学校だよりやホームページにて積極的に発信して高評価を得ている。また、学校行事や学校公開等の開催について、地域教育連絡協議会委員に情報提供するとともに、ご意見をいただき毎回フィードバックすることができた。今後も開かれた教育課程の実現に向けて、学校の方針や取組に対してご理解いただけるよう工夫する。 ・生徒会主催の地域清掃を通じて地域の方と交流を深め、環境について考えるSDGsについての学習につながった。 ・保護司OBのご協力を得て、チームとして生徒を見守る体制づくりを構築した。学校が安心・安全な居場所となるよう、今後も模索していく。	A B C D	7 3 0 0	・学校、地域、家庭が連携して学校生活も充実していきます。地域との連携はコロナの影響もあり、ご苦労もあったと思います。昨年は私の所属する町会にも生徒さんが多く参加してくださいました。 ・中学生は時間的余裕がなく地域活動に参加することが難しい現状があります。地域と連携し、地域活動ポイントなど社会参画を見える化してはいかがでしょうか。ポイント等を付与することにより、地域参画や地域貢献への動機付けとなり、地域の中での中学生の存在感が増すのではないでしょうか。 ・成果評価は、もう少し高いのではないかと感じています。 ・年度当初に地域教育連絡協議会において、なかなか学校に来れない委員もいるので、よりきめ細やかな、わかりやすい資料を要望したところ、本当に多くの資料を用意してもらえたことには感謝している。 ・今年度は様々な問題も発生し、学校運営も大変だったと思うが、適切な情報も伝えてくれて様々な対応も良かったと思う。地域に対しても校長自ら積極的に町会長さん達をお呼びして運営方針を話す機会を持ってくれて、地域との本当の連携に向けて努力している。学校支援地域本部とも、しっかりと協力してくれて、細やかな打合せも出来ている。 ・町会のラジオ体操に生徒が自主的に参加する姿勢はとても良いと思いました。 ・地域教育連絡協議会、とても学ぶことがあったのでひらけた場になっても良いのでは！ ・改めて学校だよりをまとめて拝見しました。4月からの様子、校長先生の想い、大人になった自分にも勉強になる言葉やテーマが盛り込まれていました。新しい風をこれからもよろしくお願い致します。 ・生徒たちのボランティアに送り出す対応に素晴らしさを感じています。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3						
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4						
		開かれた教育課程の実現に向けて、学校公開や行事において理解を深める機会を設定する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3						
		地域行事やボランティア活動を通して、生徒が地域社会の一員としての自覚をもち自己有用感を高められるよう支援する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。